

カキ養殖「箱」売り込み

広島や海外展開に照準

コーエイが新会社

機器レンタルやイベント企画などを手掛けるコーエイ（前橋市上小出町、関口典明社長）は、養殖カキの成長を促す技術などの販売強化に向け、新会社「宝島テクノサービス」を設立した。広島県など養殖が盛んな地域での需要を見込み、海外展開を目指す。関口社長は「カキをよく食べる中国なども視野に、当面の目標として10億円の販売を目指したい」としている。



新会社では、元群馬の高専教授で前橋総合技術ビジネス専門学校校長

の小島昭氏が開発した「宝島ボックス」を売り込む。同製品は炭素

や腐葉土などを入れた鉄製の箱（幅15センチ、奥行き15センチ、高さ40センチ）を海水に入れ、水中の鉄分を増やしてプランクトンの増加を促す。水質浄化の効果も期待できるという。

これまでの実験では養殖カキのむき身の重さが20〜30%増加し、うま味の目安となるグリコーゲンも最大70%増えた。海水の状態を見て中身をカスタマイズし、使い切り型で利

力キ養殖技術の世界展開に意欲を見せる関口社長（右）と小島氏

用できる。

小島氏は、この技術を広めるため2018年10月に宝島技術（前橋市千代田町）を設立しており、新会社が同製品の販売を担う。

カンボジアで「テラピア」という魚を養殖している日系業者が同製品の水質浄化効果に注目し、導入に向けて検討を始めた。国際協力機構（JICA）が中小企業の海外展開を支援する事業の活用なども検討していく。

小島氏は「開発した技術を多くの人に使うことが研究者の願い。販売は素人なのでテクノサービスに

期待している」と話す。関口社長は「まずは国内の商社や漁協にアプローチし、販売を軌道に乗せたい」と意気込んでいる。

コーエイは1970年6月の創業。建設重機のレンタルや、イベントの企画運営、環境設備事業などを手掛けている。近年は遊園地の運営にも取り組む。